

2761690177

## 支援にしない 支援の仕方

訪問看護にもお金は発生しますから、そういう意見があるのもモットモな話ですが、当事者さんへの支援は時として「支援ではない関わり」にしたいのです。精神障がいは「人と関わる事の障がい」と言われています。そして地域支援は地域で人と関わりながら回復するのが良いとされています。そのへんとの関わりは、「支援」ではない方が良い場合があると思うのです。

地域支援では、時に「支援」にしない形の支援をすることがあります。先日、ある利用者さんと服部緑地を見に行く機会がありました。その方は自力で買い物も行きますし、家族で旅行をしたりする事もあり、いわゆる「同行支援」の必要な方ではありません。この場合に否定的な意見を持たれる人もいます。「支援の必要がないのに」と考えるからです。

ただその人と一緒に何かをするとか、どこかへ行く、そういう共に過ごす時間を「医療従事者の支援」という形にせずに、人間と人間の関係で過ごす時間に出来たらと思うのです。

今日緑地公園に行つたことが何かの形で評価できるということはまずないと私は思います。「その支援にはどういう目的があるのか」とか「その支援はいつまでやるつもりなのか」、「要求がエスカレートしたら責任は取れるのか」という声もありますが、人と人の関係を作るというのは、いきなりレンガを積むというよりは、紙を1枚ずつ重ねていくようなもののように感じています。

そう言つても、我々も制度の中での仕事ですから出来ることしかできないのも事実です。折り合いの付け方を考えながら日々訪問をしていこうとしているわけです。医療者の支援だったり、人と人の関係だったりと、上手に使い分けていきたいと思っています。

常識についての話。  
パレットの入居者さんに、何かを助言することがあります。すると「それって常識ですか?」と質問され、考えてさせられことがあります。

「夜は何時に寝るのがいいか」「好きな人に気持ちを伝えるにはどういえばいいか」「夜食は食べたらダメか」「洗濯は柔軟剤を入れるべきか

・・・など、質問された時に世話を自分が自分の経験から答えたことは果たして常識だらうか・・・と考えられます。これが地図を描くのに似ています。場所が分からなくて地図を描いてもらう時に、「このルートが正しいですか」と言われたら困ってしまう。

そこに行くまでのルートはいくつもあるし、目的によつてもたどり着き方は変わつてくるでしょう。

地図は詳細過ぎても役に立ちません。航空写真のようよくな地図ではなく、ある程度簡略化させないと分かりにくい。

世話人の仕事は、入居者さんと一緒に地図を作っていく仕事なんかかもしれません。(世話人K)



今まで続くか不定期発行  
発行No. 006

16-90177



3月8日(土曜)は浜屋敷で  
"ハートふれあい祭り"です。

フォト  
コーナー

Q: 訪問看護をお願いする  
のはお金がかかりますか?

Q and A  
コーナー

A: あまりかかりません。

たとえば生活保護受給の方は0円です。  
国民健康保険の方も、自立支援医療の申請で0円(交通費のみいただきます)となります。

詳しくは、担当のワーカーさんか、  
ハントン事務所までお問い合わせください★